

1月24日

善意の伊予柑を神戸へ 472箱

～ありがとうございました～



一月二十四日、町民のみならずと農協、役場が協力して阪神大震災の被災地へ救援物資として伊予柑を届けました。届け先は、神戸市の区役所二方所です。

「元氣を出して一日も早い復興を願います。」との阿部町長のメッセージに対し、どちらの区役所でも歓迎され、早急に被災者に配布して味わっていただくことを約束しました。みなさんの善意の伊予柑を無事届けることができましたことを報告致します。

平成七年一月十七日早朝、巨大地震が兵庫県南部地域を襲いました。時間が経過すること、大惨事の現状が明らかになってきました。

そんな一月二十三日、本町では農協と役場の最終的な話し合いの結果、震災地へ伊予柑を救援物資として送ることを決定。すぐに同報無線を通して町民のみなさんへ協力の呼びかけを行いました。翌日、農協職員が各支店、事業所に届けられた伊予柑を瀬戸共選場に集めました。集まった伊予

柑は約六・五トン。予想をはるかに超える量です。この日休みの選果機を動かして選別を行い、四百七十二箱が箱詰めされました。これを瀬戸町漁協と福島産業から無料で提供していただいた二トントラック二台に積みこみ、二十四日午後六時二十分、役場職員の手により神戸市へ向かいました。

松山自動車道、瀬戸大橋を通過して岡山へ。そして、山陽自動車道等高速道路を乗り継いで、午前五時頃兵庫区役所に到着。玄関ロビーには足の踏み場もないくらいに毛布が敷きつめられて、被災者の方々が体を休めていました。裏口から区役所へ入ると五人ぐわいの職員が待機していました。応対して頂いた地域福祉課長の話しでは、「夜間でも連絡があればすぐに出勤できる体制をとっているが、常時職員は待機しています。つい先程、大部分の職員を自宅へ帰させたところですが」といふ。発生から一週間経過した今、職員の疲労は限界に達していました。

水など様々な物資が全国各地から送られ保管場所が満杯になってしまい、区役所前広場にテントやシートをかけて受け入れに対応していました。ここへ車一台分の伊予柑を届けました。地域福祉課長から、「遠方より貴重な物資をありがとうございます」とお礼の言葉をいただきました。

次の目的地である垂水区役所へは午前九時頃到着。大勢の職員の歓迎を受けました。総務課長の話では、「垂水区の被害は少ないので、こちらで受け入れた物資は被害の大きい長田区へ送っています」といふ。一日も早い復興を願ひ帰町しました。

さて、残った伊予柑約一・七トンは市場で十五万三千円になったので、愛媛新聞社を通して義援金として送らせていただきました。今回の被災地へ伊予柑を送ることに、数多くの方々の賛同をいただきました。ありがとうございます。

(2)



広報と



救援物資を運び……いざ神戸へ向けて出発

'95

2

No.262



中国訪問記	2
瀬戸中2年生…少年式を迎える	3
学芸会のもよう、共進会開催	4~5
わが家のアイドル、みんなの作品外	6
ヘルスアイ (栄養学級閉講式)	7
お知らせ	8
人々のうごき	9
	10

●発行 愛媛県西宇和郡瀬戸町役場 ●発行日 平成7年2月20日
●編集 企画課 TEL 0894-52-0111

中国訪問記

瀬戸町長

阿部 茂久



孫文墓地前にて説明を受ける経済視察団

愛媛県海外協会主催の中国経済視察団に参加させて頂きました。一行は、十七名で私はその団長として参加いたしました。

上海・蘇州そして南京を訪問しての感想を簡単に述べさせて頂きます。

十二月二十二日松山空港を離陸、初めて見る広大な関西新空港に到着した。こ

こで国際線に乗り換え、約二時間のフライトを経て思ひ出深い上海空港に感激も新たに着陸した。

昭和十三、四年、当時十七、八才の青春時代の私は当時、日本と中国は不幸な時代であり、自宅の川之浜では毎日のラジオのニュースの報道が最大の感心事であったと記憶している。

昭和十六年懲役検査に甲種合格となり、昭和十七年旧満州（現在の東北地方）独立守備隊に現役兵として入隊、二年後に赤道直下に転戦し終戦の二十年十二月に復員する。戦争・空腹そして戦友の顔、思い出が、そして五十年前の過去が走馬灯のように駆け巡り今蘇る。

十一月二十三日～二十五日 二日目～四日目

（上海・蘇州・南京市）

上海市街地及び郊外各地の視察をして、島国の日本では考へる事の出来ない大陸の広野に、日本を始め各国内の企業の進出競争が激しくまさに建設・建築ラッシュ

ユであり、この国の発展が象徴されていた。

これから先、数年後の上海は、日本の東京、大阪の戦後の復興以上に著しく伸びを見せ、中国の偉大さに因り知れない発展に向かうであろうと感じた。

又、南京市も同様の発展振りである。中国国民一人ひとり、自分の奮りや自慢さが少しもなく、自然の心の中で太った腹の偉大さは、島国日本人の考へる事の出来ない尊い国民性を持っている事に感動した。

十一月二十六日・五日目

（南京市）

近代中国に導いた国民的英雄の孫文先生の墓地に参列する。車を降りてから直線で、千数百mの階段を昇ったところあり、幅二十数mに及ぶ大きな墓地であった。自然に溶け込んだ山の山腹に祭られた英雄を惜しみ参拝道は、人々が絶える事無く一日に何万人もの参拝者が訪れると言う。

又、高齢化・過疎化の進む本町にあつて今一番重要

であると思われる老人福祉施設（老人ホーム）を現地視察することができた。

延べ二百坪の平屋の建物に現在二十一名の入居者を八名の職員（保内町・あけぼの荘と約同規模）で対応していた。女性の責任者を中心に良く統制がとれており、全員が協力的で毎日が和やかで楽しい様子が見られ、好印象を受けた。

十一月二十八日早朝、思ひ出深い中国を後にする。

中国を視察して特に思ひを新たにすることは、自分の友人・知人たちが調和の取れた社会がここに形成されていた。今日の日本では、忘れがちな地域社会が現存しており、大いに参考になり見習うところが多分にあると最後。

最後に、視察団は県内でも秀れた方々の集まりであり、良き理解者でありましたから、一週間の旅行中何一つ心配事もなく一致協力して、明るく楽しい最高の思い出に成る有りがたい旅行であった。

(3)

少年の日を迎えられた35名のみなさんおめでとうございます。
自分の置かれている立場を見つめて、しっかりと大地に足を付け夢多き将来に向かって
一歩一歩力強く前進して下さい。
このよき日を迎えられた2年生男女4名の方に、熱いメッセージをいただきました。

少年の日を迎えて

川東 弘幸



僕は、今年少年式を迎えることになりました。

少年式とは、大人への階



少年式

段を登り始める時期のことだと思ひます。

これからは、自分の行動に責任をもって積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

勉強では、三年生になる今、今より難しくなるので、今まで以上に、自主学習を真面目にしようと思ひます。

運動面では、部活動などを通して体も心も鍛えていきバレーの大会で優勝するこ

とを目標に、がんばっていきたく思ひます。

また、これからは、けじめのある立派な人間に育っていきたく思ひます。

こういった目標もはたせるように努力し、一歩一歩実現できるようにがんばっていきたく思ひます。

少年式を迎えて

井上 直美



二月四日少年式を迎えて私は、何事も最後までやりとげれるようになりたいと思ひます。今まで自分で決めたことを最後までやりとげたことがあまりないような気がします。いつも途中でいやになり、やめてしまっています。あとは自分でできることなのに人をたよってしまふことです。私にはたくさんの悪い面があります。だから少年式を迎えているんを面で悪い所を直していきたく思ひます。自覚、立志、健康の言葉とおひ、責任を持って、自分を見つめ直し、たくましい心と体を作りたく思ひます。

(4)

2/5 各小学校で学芸会が開催された

冬休みが終り、最終学期のしめくりとして、児童たちは大ハッスル…寒い1日ではありましたが、練習の成果を発揮して頑張りました。

ちょっとHotですよ!



◀ 大久小学校



◀ 塩成小学校



◀ 三机小学校



◀ 川之浜小学校

2/11 「共進会」が開催された…瀬戸共選場にて…

柑橘農家のみなさんの1年間の成果が発表される農産物共進会が2月11日(土)にぎやかに開催された。会場では、参加者達が展示物の観賞、バザー、もちつき、出店など色々なコーナーで満喫されていた。今年の思いはどうだろう? また1年笑顔で会えることを願って頑張ってください。今回受賞された方々は下記の方々です。

第2回農産物共進会実品評会入賞者

	高内伊予柑	ダイオオレンジ	本	田	今津ポンカン	清	見	サンフル	その他
金賞	松田 福夫 (大久)	坂内みちる (大久)	坂本 清美 (小島)	福島 石伴 (川之浜)	阿部 好輝 (川之浜)	坂本 福義 (大久)	福義 (大久)	川本 良也 (志津)	甘野 博康 (福成)
銀賞	井上 孝次 (大久)	上村 博康 (福成)	佐々木秀江 (川之浜)	坂本 清美 (小島)	福島 石伴 (川之浜)	阿部 好輝 (川之浜)	高氏 岩男 (志津)	川本 良也 (志津)	甘野 博康 (福成)
銅賞	大島 正重 (志津)	佐々木順子 (大久)	山上 一 (大久)	山本 清文 (大久)	野本有三郎 (大久)	五島伊勢雄 (大久)	水本 (志津)	博 (神城)	万市 (甘野)
	川本 孝一 (大久)	井上 (大久)	坂本 清文 (大久)	野本有三郎 (大久)	野本有三郎 (大久)	五島伊勢雄 (大久)	井上 孝子 (志津)	坂本 福義 (大久)	甘野 博康 (福成)
	菅原 葵 (大久)	伊勢家義雄 (三机)	上村 博康 (福成)	大石 静枝 (足成)	伊勢家義雄 (三机)	上村 博康 (福成)	松代 芳春 (志津)	高木 正司 (大久)	結城 (神城)



(6)



少年少女よ 大志をいだけ

少年式を迎えられた瀬戸中2年生

少年の日を迎えて

佐々木 智



僕は、少年の日を迎えて「自覚」「立志」「健康」を真面目に考えていきたい。「自覚」で責任ある行動を心がけていきたい。何か先



平成6年度



生や友達にたのまれたことでも、すぐにあげださず、責任をもってやりとげたい。「立志」で自分を見つめなおし、将来の進路等について、志を立てていきたい。まだ中二だからと言わないで、自分のことをよく考え直して将来のことを真面目に考えていきたい。「健康」では、けじめのある生活習慣を身につけ、たくましい心と体をつくっていききたい。夜遅くまで、テレビなど見ないで、勉強も

少年の日を迎えて

佐々木 伊津子



早めにして早起きまで心がけて、部活なども真面目にとり組んでいきたい。二月四日、私達は少年式を迎えて、少年法も適用されるようになり、少し大人になった気持ちで一杯です。これからは、自分のする事に自信を持ち、失敗を恐れず何事にも挑戦出来る強い精神力と、あきらめず努力し、常に上を目指す向上心で自分の夢に向かって、一歩一歩進んでいきたいと思っています。

(5)

ヘルスアイ

瀬戸町 ～栄養学級閉講式～



平成五年度まで各地区において実施していた栄養学級を、六年度は瀬戸町栄養学級として、町民センターで開催しました。町内に参加希望の呼びかけを行い、申し込み者は二十二名でした。

実施期間は十月二十八日から二月二十七日までの計八回で、八幡浜中央保健所の協力を得て、肥満予防食、クリスマス料理等の調理実習、栄養の基礎学習に、みなさんとても熱心に参加していただきました。

一月二十七日(金)は閉講式をむかえ、この日の調理実習はグループ別献立実習です。事前にグループを四班に分け、各班で献立を決めて実習を行いました。各班三～四品を調理し、当日の朝にはモロヘイヤのケーキが加わり、全部で十六品ができ上がりしました。一品ずつ大皿に盛り、バイキング形式で食し、どの料理もとてもおいしくいただきました。

今回の栄養学級は年齢層

が幅広く、献立をたてた時でも、「やっぱり若い人と一緒にせんといけん。この献立は気に入った」と参加者の声。若い人には若い人なり、年配の人には年配の人なりに、お互いがいい勉強になったのではないかと思います。

この栄養学級を十九名の方が修了され、町内の修了生は二四八名となりました。さらに、九十二名の方が八西地区保健栄養推進協議会に加入し、地域で活躍していただいています。平成七年度も瀬戸町栄養学級として実施する予定です。今回の参加で回数の足りなかった方、参加できなかった方等、多数の方の参加を期待しております。



(8)

わが家のアイドル

松谷 茂孝さんの二女
時子

西川 吾一さんの長男
貴子



美咲ちゃん(足成)
(平成5年8月17日生まれ)

ハイ～ 美咲です。お父さんとお姉ちゃんが大好きでいつもあとをついて行きます。いぬやねこが大好きです。笑顔が似合う優しい子に育って欲しいです。

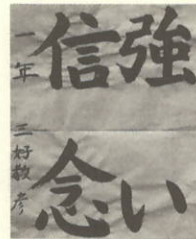


将仁くん(川之浜)
(平成5年8月16日生まれ)

僕は内弁慶でしたが、近頃はケンカもできるようになりました。でも、カゼひとつひかない元気な子で～す！



瀬戸中学校一年
三好 教彦くん

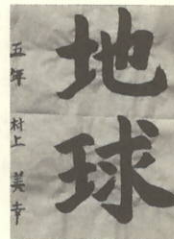


強の字が難しかったです。全体のバランスに注意しました。

(7)



塩成小学校五年
村上 美幸さん



わたしたちが住んでいる地球。いつまでも美しい地球でありますよう、心をこめて書きました。



